愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	学園理念から読み解く現代社会		
担当者(Instructors)	榊 直樹	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

2023年に創立100周年を迎えた東邦学園は、建学の精神に「真に信頼して事を任せられる人格の育成」、校訓に「真面目」を掲げ、教育活動を行ってきた。この理念について下出義雄初代理事長は「きわめて平凡な言葉ではあるが、同時に千古の真理であり人間精神の根本である。雋敏（しゅんびん）な才子よりも着実にして円満な常識あり気力ある人物、真に信頼して事を任せうる人格を作り上げたい」と語っている。１世紀経ても色あせない理念を踏まえて、私たちは多様な価値が交錯する現代社会をどう読み解いたらいいのか。歴史の教訓を踏みにじる大規模な侵略戦争が起き、予測不能な事象が連続して、正解を見いだせないこの先、先人の歩みを学び直し、「よすが」となる生き方を探してほしい。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	現代社会を読み解くに当たって、様々な制度や考え方、課題は、どんな歴史を経て今に至ったのか。資料や過去の映像、テキストを使って、時系列的に、諸課題のポイントを整理しながら説明する。テキストの『ニュース検定』は大学生に必須の社会常識を掲載しており、就職対策としても学んでほしい。講義では、簡易なプレゼンテーションを通じて受講者の意見も聞き、レポートを毎回提出してもらう。自分がもしその立場、その時代に生きていたらどう考えて行動するかを問う。正解を求めるより、自らに問いを発する機会としたい。現在の国際情勢などにも関心を持つよう、新聞記事を使った時事解説も行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	眼前のウクライナ侵攻と講義の目的	ウクライナ侵攻は、2022年２月24日の開始以来１年を超えた。鉾を突くロシア、盾で守り続けるウクライナ。なぜここまで拡大したのか。国際ルール破り、核兵器の脅しに屈しても、戦火を終わらせるか。民主主義を掲げ、専制政治に立ち向かうには、流血も致し方ないのか。その底流には、国家間の相互信頼の欠如と分断がある。	□
第2回	学園創設者・下出民義先生の足取り	下出民義先生は幕末の泉州生まれ。15歳で小学校の「校長」となり、石炭商から実業の道に進んだ。名古屋に移って福沢桃介と出会い、電力開発、鉄道網整備、製鋼所設立に携わり、貴族院議員も務めた。東邦商業はなぜ「真の信頼」「真面目」を掲げたのか。	□
第3回	中国大陸侵略から太平洋戦争そして学徒出陣	東邦商業は創立11年で野球部が春の甲子園で初優勝。一方でその３年前の1931年満州事変が勃発、軍靴の足音は強まり、戦地へ向う生徒と教員も相次ぐ。さらに学徒出陣により特攻隊となる大学生、勤労動員先も空襲に遭い、教員と生徒が犠牲者となった。	□
第4回	教育勅語から教育基本法へ　国家と個人の関係は	「教育は誰のためのものか」。教育制度は、明治から敗戦時までと、戦後ではどう変わったか。戦地、勤労動員先、疎開先から人が戻り、ベビーブームが起きる。1950年代後半から児童が一挙に増え、集団就職、高校進学、さらに大学進学者増となる。富国強兵、教育勅語から特攻にまで赴かせた教育観と、戦後の教育基本法を比較し、国家と個人の関係を考える。	□
第5回	日本国憲法の明日を考える	現憲法の施行から76年、憲法の根本原理・民主主義と平和主義は、コロナ対策とウクライナ侵攻をめぐり、世界中で揺らいでいる。とりわけ平和主義を掲げた憲法９条に基づいて専守防衛に徹してきた日本の防衛方針は、近隣の国際情勢によって、新たに「反撃能力」を保持するか、大きな岐路に立っている。	□
第6回	冷戦時代と60年・70年安保、学園紛争	今の世界は、第二次大戦後、最悪の国際情勢に陥り、第三次大戦の恐れも指摘される。34年前も、米国と旧ソ連は核兵器＝今はロシアが保持＝を背景に世界の覇権を競う冷戦が続いていた。日本政治にも投影し、日米安保条約改定をめぐって国論が激化、デモ参加学生に死者もでた。ベトナム戦争、日米安保、沖縄返還から学園自治と、日本中の大学が荒れ続けた。	□

第7回	高度成長が辿り着いた「失われた20年」	高度成長時代、賃上げは年２万円を越えた一方、公害も広がった。経済成長最優先の意識と仕組みは、最後にバブルに踊り狂い、日本を破綻と長い低迷へ突き落とした。就職も超氷河期が続いた。「失われた20年」を振り返る。	□
第8回	企業の行動規範と社会的責任	「失われた20年」では、企業の行動規範と社会的責任が問われた。業績の粉飾や産地、品質、強度などの偽装、リコール隠しが相次いで明るみにでた。「信頼」と「真面目」の精神から見た企業の在り方とは。	□
第9回	対立に揺らぐ世界／難民に排外主義の壁／日本の外交は	米ソ冷戦の下で抑え込まれてきた世界は、ベルリンの壁崩壊、ソ連解体で自由を謳歌出来る時代の到来と思われたが、民族・宗教対立、貧富の格差などが生む大量の難民にテロリズムが横行、排外主義と新たな分裂が生まれている。	□
第10回	変わる日本の産業・貿易、働き方	隆盛だった繊維など軽工業は新興国に生産拠点が移り、家電・自動車・鉄鋼など重厚長大産業も国内市場が縮小した。かつて名を馳せた企業は倒産か身売りか業種の転換を迫られ、ニッポンの成長を支えた年功序列・終身雇用制度は崩れる一途だ。モノづくりと入れ替わるIT産業。働き方はコロナ感染予防も加わり、変容する。	□
第11回	深刻な人口減少と向き合う	1980年代、米国に次ぐ世界第２位の経済力を誇った日本だが、高度成長を支えた「団塊の世代」は第一線を退き、後期高齢期に差し掛かった。出生者数の減少に歯止めがかからず、2022年は恐らく80万人を割り込む。特に地方で人口減少が著しい。様々な分野の衰退傾向にどう向き合ったらよいのか。	□
第12回	社会保障の将来は	年金と医療保険制度は、平均寿命が八十歳を超す時代となり、増え続ける支出に立ち往生している。それに拍車をかけるのは急速な少子化である。さらに「人生百年時代」に向かうに当たり、何歳まで働き、いくら年金が受け取れるのか。老後の蓄えに2000万円必要は本当か。	□
第13回	スポーツの世界に「真面目」は必要か	スポーツが勝ち負けを競うとき、「フェアプレイ」にどれほどの価値があるのか。国威発揚、高収入のため、薬物の力を借りてなぜ悪いのか。他方で高校野球の勝負を度外視した直向きなプレーに、なぜ拍手するのか。	□
第14回	これからのエネルギー／地球環境を守るために	大災害、体温を超す猛暑、氷河の溶け出しによる海面上昇など、地球温暖化対策が求められる中で、化石燃料を多く使う日本に国際的非難が集まる。「カーボンニュートラル」への方策、福島原発事故の教訓はどう生かすのか。単純な解がないエネルギー問題を考える。	□
第15回	まとめ	18歳以上は「成人の扱い」を受ける。学生の皆さんは、既に行使できる選挙権に加え、多くの権利と責任への自覚を大人と同等に求められる。皆さんに社会が抱く期待感は、自立的で若々しい積極的な行動であろう。それには信頼と、少し無謀でも直向きさではないか。学園が大切にする理念についておさらいしながら、まとめたい。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回のテーマにまつわる資料を事前に配布もしくはテキストのテーマを予め伝えるので、講義の前に読む（2時間）。 事後学習として、毎回示す歴史上のキーワードについて復習をする（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義を踏まえて、その場で提出を義務付けるレポートに関して、コメントをする。受講者を励まし、称えると共に、物事を一層多面的、多角的に捉えて、深く考える姿勢を促す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	**◆ 2019全学共通DP1**	社会、文化等に関連する幅広い知識の習得と活用を目指し、学園が生まれた1世紀前からの歴史をたどって、現代を見つめ直す眼を養うことを到達目標とする。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
55%				45%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義の際、受講内容に基づいて提出を求めるレポートの内容を採点し、成績評価に反映する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	２０２３年度版ニュース検定　公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）＝日本ニュース時事能力検定協会	978-4-620-90758
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「もういちど読む　山川日本史」（山川出版）	4634590905
2	池井戸潤「空飛ぶタイヤ」（講談社）	978-4062764520
3		
4		
5		